

1月23日 年間第3主日(神のことばの主日)分かち合い

ルカ 1.1-4, 4.14-21

今日の福音で聖ルカは、ナザレで行われた主イエスの計画を述べて説教を記す前に、福音を告げ知らせる行為について簡潔にまとめて語ります。それは、聖霊の力をもって主イエスが行うわざのことです。主イエスの説教とその結果は来週の年間の第四日曜日に聞きます。今日は、イザヤ書が書いたとおり、その言葉が実現された主イエスのアイデンティティと主イエスの使命ということを考えてみましょう。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである」と。

旧約聖書が予言したとおりに、主イエスは油を注がれた方である、すなわちメシアであり、救い主であるのです。そして、主イエスの使命は「神の恵みの年を告げる」のです。すなわち、主イエスは御父の赦し、御父の慈しみを宣べ伝えるという使命です。その御父の慈しみによって、貧しい人が良き知らせを聞き、捕らわれている人が解放され、目の見えない人が目に見えるようになり、圧迫されている人が自由になるという神の恵みの年が来ます。

さて、貧しい人に福音を告げ知らせるという言葉に注目していきたいと思います。貧しい人に福音を告げ知らせるのは主イエスの使命です。また、それは教会の使命でもあり、教会にいる我々の使命でもあります。キリスト者になることと宣教者になることは、同じことです。

それでは、貧しい人とは一体どういう人でしょうか。主イエスはもちろん福音を誰も除外することなく全人類に、また全人類を救うためにこの世に来ました。ただし、聖書を読んですみずくと、神の国の訪れを告げる救い主の言葉は、遠くにいる人、病気で苦しんでいる人、社会から疎外されている人、圧迫されている人に優先的に向けられるということです。そういう意味で、貧しい人とは経済的に貧しい、ということだけでなく、先ほど述べたような人も含められています。更に、自分の力ではやっていけない、神様なくしてどうすることもできない、自分の力不足を認め、神に信頼する人、神に頼る人です。貧しい人はそういうような人だと思います。そうすれば福音は、必ずその人に力を注ぎ、その人の足りなさを補うのです。つまり、貧しい人が、まさに、福音の中心にいるのです。

それから、福音を告げ知らせる、あるいは福音をもたらすとはどういうことでしょうか。それは何よりもまず、彼らのそばに行くこと、喜んで彼らのために尽くし、圧迫されて

いる人を解放することです。このすべては、キリストの名のもとに、キリストの霊とともに行われることです。キリストこそが神の福音、キリストこそが神の慈しみ、キリストこそが神による解放、キリストこそが私たちのために貧しくなられ、その貧しさで私たちを豊かにされた方だからです。福音を告げ知らせることを通して、主イエス・キリストは私たちに心を入り替えさせ、傷を癒し、愛の倫理に基づいて人間関係と社会関係を変えてくださいます。

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と主イエスは仰っています。神の恵みは今、訪れています。神の真の救いは今、実現しているのです。私たちの使命と主イエスの使命は同じです。まず、私たちは貧しい人びとですかという疑問を考えてみましょう。主イエスのようにへりくだって貧しくすることができるでしょうか。そうしてから福音、すなわち神の赦しと慈しみを宣べ伝えます。周りの人々の中には、貧しい人がいらっしゃるでしょうか。特に家族の中には貧しい人がいらっしゃるでしょうか。という様々な疑問を、福音書を聞きながら、今週考えて、それを実習していきましょう。

乙女マリア、福音宣教者の母よ、私たちが世界中に、中でも、貧しい人の身と心の中にある福音への飢えと渇きに敏感になれるよう助けてください。また、私たち一人ひとりと、すべてのキリスト教共同体が、キリストが与えてくださる大いなる慈しみをあかすことができるよう、助けてください。アーメン。